

千葉県感染症発生動向調査情報

2015年 第32週 (8/3-8/9) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		32週	31週	30週	29週
小児科		18	18	18	17
眼科		4	5	5	4
インフルエンザ*		28	28	28	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県				千葉県 7/27-8/2 31週	
		注意報	8/3-8/9	7/27-8/2	7/20-7/26		7/13-7/19
			32週	31週	30週		29週
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	2 0.11	1 0.06	0 0.00	13 0.10
	咽頭結膜熱		2 0.11	6 0.33	4 0.22	2 0.12	79 0.59
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		32 1.78	49 2.72	53 2.94	55 3.24	325 2.41
	感染性胃腸炎		49 2.72	67 3.72	52 2.89	81 4.76	429 3.18
	水痘		4 0.22	2 0.11	1 0.06	3 0.18	37 0.27
	手足口病	↓★★★	204 11.33	246 13.67	218 12.11	217 12.76	1223 9.06
	伝染性紅斑	↓	15 0.83	28 1.56	21 1.17	26 1.53	121 0.90
	突発性発しん		15 0.83	16 0.89	17 0.94	26 1.53	74 0.55
	百日咳		0 0.00	3 0.17	1 0.06	0 0.00	4 0.03
	ヘルパンギーナ	↓	63 3.50	104 5.78	85 4.72	42 2.47	599 4.44
流行性耳下腺炎		8 0.44	8 0.44	1 0.06	6 0.35	84 0.62	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1 0.04	1 0.04	0 0.00	1 0.04	1 0.00
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		3 0.75	1 0.20	1 0.20	3 0.75	36 1.09
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.67
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(14件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	結核	女性	80歳代	病原体等の検出
結核	男性	50歳代	病原体等の検出	結核	女性	90歳代	病原体等の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	腸管出血性 大腸菌感染症	女性	30歳代	病原体の検出及び ベロ毒素の確認
結核	男性	80歳代	病原体等の検出				
結核	男性	90歳代	病原体等の検出	レジオネラ症	男性	60歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	90歳代	病原体等の検出	ウイルス性肝炎	男性	30歳代	IgMHBc抗体の検出
結核	女性	50歳代	IGRA検査	急性脳炎	男性	10歳代	中枢神経症状等
結核	女性	50歳代	ツベルクリン反応等	-	-	-	-

・結核10件(143)、腸管出血性大腸菌感染症1件(9)、レジオネラ症1件(8)、ウイルス性肝炎1件(2)、急性脳炎1件(7)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

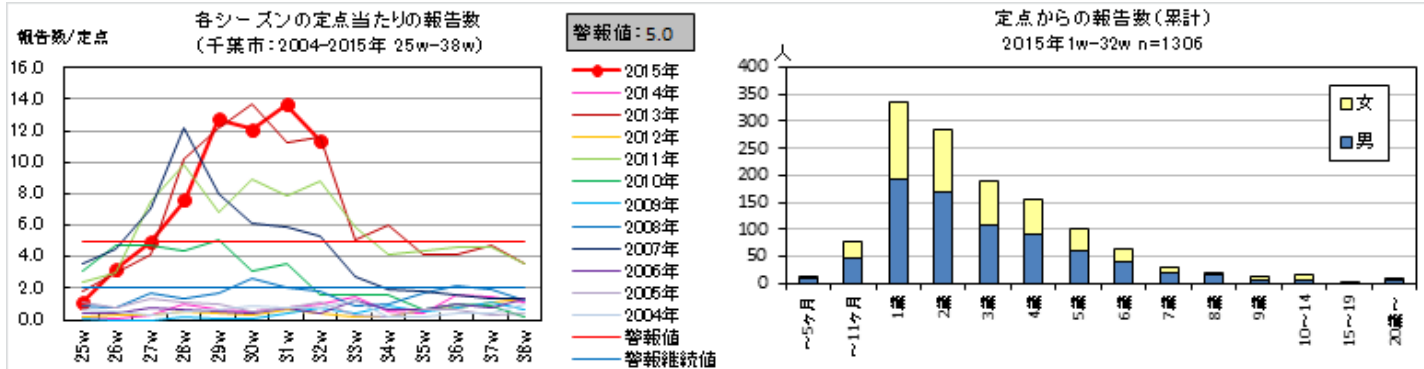
定点当たり報告数 第32週のコメント

- ＜手足口病＞前週より減少し11.33となった。流行発生警報開始基準値は上回ったまま。
- ＜伝染性紅斑＞前週より減少し0.83となった。過去10年の同時期と比べると多い。
- ＜ヘルパンギーナ＞前週より減少し3.50となった。過去10年の同時期と比べるとやや多い。

トピック

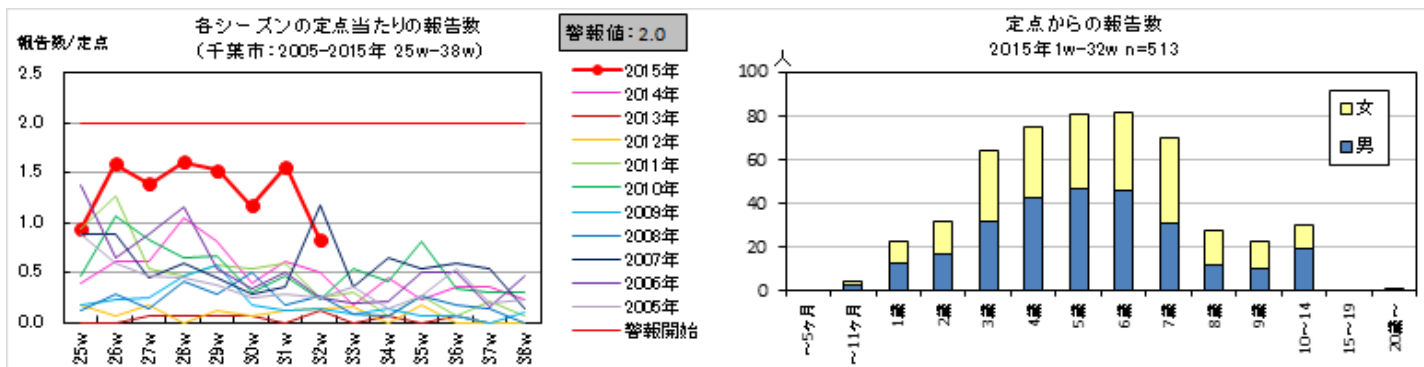
＜手足口病＞

全国レベルの第31週現在は、過去8年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、宮崎県、新潟県、宮城県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なくなっています。千葉市の2015年第32週は前週から減少し11.33となりました。過去10年の同時期と比べると多く、また流行発生警報開始基準値(5.0/定点)は上回ったままです。区別の発生状況は、全区で流行発生警報開始基準値を上回るか並んでおり、稲毛区(15.3/定点)が最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第32週までの累積報告数(n=1306)によると、性別では男性が58.2%(760名)、女性が41.8%(546名)で、年齢階級別では1歳(25.8%:337名)、2歳(21.7%:284名)、3歳(14.5%:190名)の順に多くなっています。



＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第31週現在は前週より減少しましたが、過去8年の同時期と比べ最多となっています。都道府県別では、大分県、鹿児島県、滋賀県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2015年第32週は前週より減少し0.83となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(3.0/定点)で減少しましたが流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回ったままで最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。その他花見川区(2.5/定点)で流行発生警報開始基準値を上回りました。2015年第1週から第32週までの累積報告数(n=513)によると、性別では男性が53.2%(273名)、女性が46.8%(240名)で、年齢階級別では6歳(16.0%:82名)、5歳(15.8%:81名)、4歳(14.6%:75名)の順に多くなっています。



＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの第31週現在は、過去8年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では、和歌山県及び大分県、福井県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2015年第32週は前週より減少し3.50となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(7.0/定点)で流行発生警報開始基準値(6.0/定点)を上回り最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。その他、稲毛区(4.33/定点)は減少し流行発生警報開始基準値を下回りましたが、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)を上回っています。若葉区は大幅に減少し、流行発生警報終息基準値を下回りました。2015年第1週から第32週までの累積報告数(n=357)によると、性別では男性が49.3%(176名)、女性が50.7%(181名)で、年齢階級別では1歳(28.0%:100名)、2歳(19.9%:71名)、3歳(16.5%:59名)の順に多くなっています。

